

倉敷市教育大綱

～ “From Kurashiki” が誇りとなるひとづくり～



平成 28 年 2 月

倉 敷 市

倉敷市民憲章

私たちは、日本のふるさと瀬戸内海と母なる高梁川にはぐまれ、
古い伝統と洋々たる未来にかがやく倉敷市民の誇りをこめて

- 一 自然を生かし、緑と花のあるきれいな環境をつくれます。
- 一 人間をたいせつにし、青少年には夢、老人には安らぎのある
あたたかい社会をつくれます。
- 一 秩序を守り、平和で安全なまちをつくれます。
- 一 働くことによるこびをもち、明るく健康な家庭をつくれます。
- 一 教養を高め、世界と通じ、個性ある文化をつくれます。



はじめに

倉敷市は、歴史と文化が息づく瀬戸内の中核都市です。この発展を担ってきたのは、倉敷市で育った人々であり、学んだ人々であると思います。また、礎となったのは、歴史と文化に支えられた倉敷市のひとつづくり、すなわち、倉敷市が大切にしてきた教育です。

教育は、「国家百年の大計」と言われるように、国家・社会のあらゆる分野の発展の基盤であり、古今東西を問わず、地方自治体においても「ひとつづくり・人材育成」は最重要課題であると認識しております。まさに、まちが形作られてきた背景には教育があり、同時に、教育はまちの未来を創る根幹であると言えます。

ところで、近年、グローバル化や情報化の進展等にともない、社会のニーズはますます、複雑かつ多様化し、地域社会においては、人間関係の希薄化、核家族化などによる地域・家庭の教育力の低下が問題となり、さらに、人口減少問題や地方創生など、新たな課題が発生しております。

これらの状況を踏まえて、平成27年4月1日には、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、地方公共団体の長と教育委員会を構成員とする「総合教育会議」を設置することが規定され、地方公共団体の長は、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるもの」とされました。

本市におきましても、平成24年4月に倉敷市教育振興基本計画を策定し、信頼と愛情に基づいたあたたかい心を基調とした、「よい子いっぱいのもち倉敷」の実現に向け、教育行政を推進してきたところですが、現在の目まぐるしく変化する社会情勢の中にあっては、これまで以上に、他者への思いやりの心を持ち、たくましく生き抜く力を身につけ、生涯にわたって学び続ける情熱を失わず、ふるさと倉敷を誇りに思い、このまちの未来を力強く担う「人財＝ひと」を育てることが必要となっております。

また、こうしたなか、本年5月には、伊勢志摩サミットの関係閣僚会合であるG7倉敷教育大臣会合が本市において開催されることとなりました。教育・文化を核としたまちづくり・ひとつづくりを進めてきた倉敷市としては、これまでの観点を礎とした上で、世界に開かれた視点も加えたものとして、新たに「倉敷市教育大綱」を策定し、「“From Kurashiki”が誇りとなるひとつづくり」として、「I am from Kurashiki. (“倉敷のひと”であることを誇りに思うひとに)」、「This is from Kurashiki. (“倉敷らしさ”を誇りに思うひとに)」、「From Kurashiki to the world (“倉敷のよさ”を世界へ発信できるひとに)」の3つの思いを込めて取り組んでまいることとしたいと考えております。

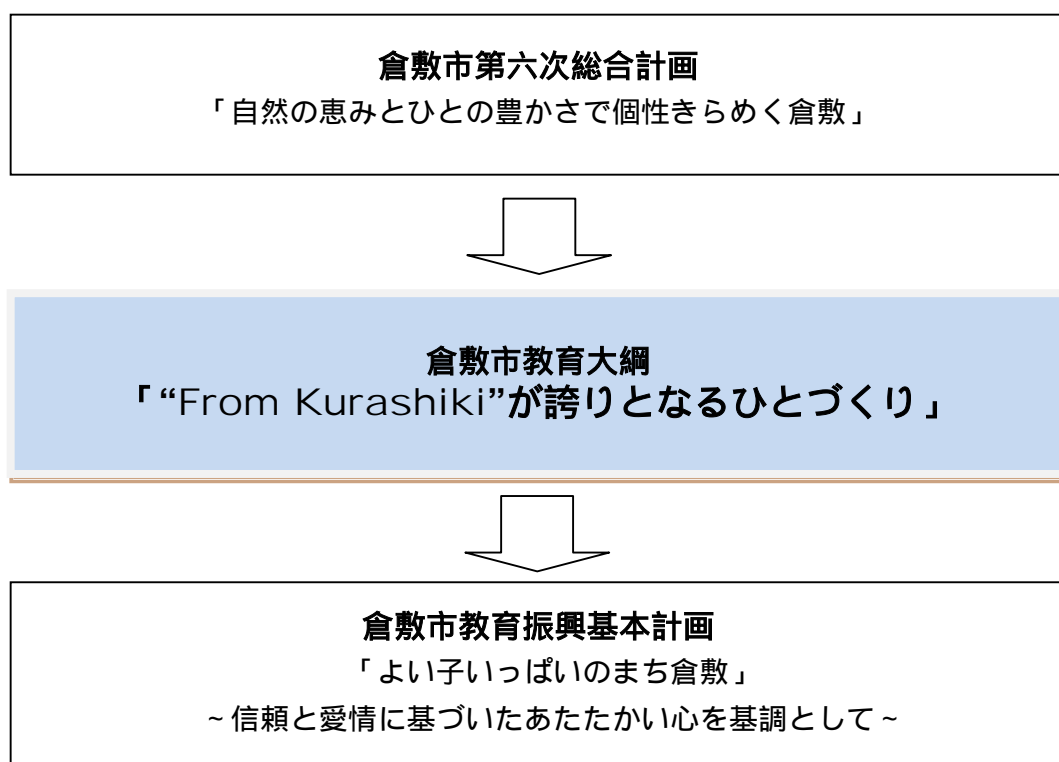
今後とも、これを教育の目標や施策の根本的な方針として教育行政を推進し、市民の皆様と共に倉敷の未来を創ってまいります。



平成28年2月
倉敷市長 伊東香織

1 大綱の位置づけ

倉敷市教育大綱は、倉敷市民憲章の精神を尊重し、倉敷市におけるまちづくりの最上位計画である倉敷市第六次総合計画との整合性を図るとともに、教育分野における個別計画である倉敷市教育振興基本計画が、より効果的に推進されるよう、教育の目標や施策の根本的な方針として策定するものです。



2 大綱の期間

倉敷市教育大綱の期間は、倉敷市第六次総合計画（平成23年度～平成32年度）及び倉敷市教育振興基本計画（平成24年度～平成32年度）との整合性を図るため、平成28年度から平成32年度までの5年間とします。

なお、国の動向、社会・教育情勢の変化等に伴い、必要に応じて見直しを行います。

3 「“From Kurashiki”が誇りとなるひとづくり」に込める3つの思い

I am from Kurashiki.

「“倉敷のひと”であることを誇りに思うひとに」

「倉敷で育った」「倉敷で学んだ」「倉敷に住んだ」ことを誇りに思うひとになるということです。「このまちで育ってよかった。」「このまちで学んでよかった。」「このまちに住んでよかった。」と思えるひとになってほしいという思いを込めています。

This is from Kurashiki.

「“倉敷らしさ”を誇りに思うひとに」

倉敷には、世代を超えて受け継がれてきた個性的で魅力的な歴史・文化が息づいています。その歴史・文化に支えられながら、倉敷の未来を創っていくことを誇りに思うひとになるということです。倉敷の魅力ある地域資源を活用して、倉敷を活力ある地域にしていきたいという思いも込めています。

From Kurashiki to the world

「“倉敷のよさ”を世界へ発信できるひとに」

グローバルな観点をもち、倉敷から世界に向けて視野を広げ、倉敷の魅力を世界へ発信していくことができるひとになることが誇りとなるということです。豊かな個性と創造力で、世界の人たちに倉敷のよさを知ってもらいたい、共有してもらいたいという思いを込めています。

4 「“ From Kurashiki ” が誇りとなるひとづくり」を目指す市民の姿

< 「子どもの教育」の視点から >

思いやりの心を持ち，自分らしく，たくましく生き抜くひと

複雑化・多様化する現代社会においては，自分らしさが尊重され，他者への思いやりの心を持ち，たくましく生き抜く力を身につける必要があります。また，近年，グローバル化がますます進んでいく中で，子どもたちが世界について知り，国際感覚を養うことも必要です。

このため，すべての子どもが自分らしい強みと自信をもてるよう，豊かな個性と創造力を伸ばす教育を推進し，「よい子いっぱいのもち倉敷」の実現に向けて，自ら学び，考え，行動することができるたくましさをもった子どもを育成します。

< 「生涯学習」の視点から >

夢と生きがいを持ち，学び続けるひと

教育の場は，学校だけではありません。ひとは，生涯にわたって学び続けていくものです。市民一人ひとりが健康でいきいきと暮らすためには，人生に夢と生きがいを持ち，知識や教養を高め，生活を実り多いものとする必要があります。

このため，誰もが楽しく豊かに学び続けることができる環境づくりを進めます。また，学びの成果を地域社会でお互いに活かしていくことで，学びを通して支えあう生涯学習社会の実現をめざします。

< 「地方創生」の視点から >

ふるさと倉敷を誇りに思い，倉敷の未来を担っていくひと

人口減少に伴う地域社会の縮小が懸念される中，「地方創生」に向けて，地域を担う「人財＝ひと」を地域の中で育成するとともに，倉敷が誇る特色ある地域資源を活用し，その魅力を国内外へ広く発信し，活力ある地域にしていくことが必要です。

このため，学校，家庭と地域が連携し，家庭や地域の教育力を高め，地域全体で子どもを育てる環境づくりを進めます。また，郷土の先人，歴史，文化等を学び，郷土への理解，愛着，誇り，そして，将来このまちを担っていきたいと思う心を育てていきます。

